

# 麻疹（はしか）はどんな病気ですか

麻疹ウイルスによる赤い発しんが出る病気です。麻疹は、免疫のない人が感染すると90%以上が発症するといわれています。また、発症して回復するまで約7日間から10日間と長いため、身体への負担が強く合併症によって入院が必要な場合もあります。

## ◆ 感染経路・潜伏期間

患者のせきやくしゃみに含まれる麻疹ウイルスにより、空気感染します。潜伏期間は、一般的に10日間から12日間ですが、修飾麻疹（※）の場合もう少し長くなることがあります。他人にうつしやすい期間は、発症1日前から解熱後3日間（発熱が不明瞭な場合は発しん出現4日前から出現後4日間）です。

※修飾麻疹：一部症状のみの比較的軽い麻疹で、ワクチン免疫が低下した人などにみられます。



## ◆ 症状

38℃前後の発熱、せき、鼻水、目の充血、目やになどのかぜ様の症状（カタル症状）がみられます。熱が一旦下がる頃に頬の内側にコプリック斑（灰白色の小斑点）が出現します。その後、再び熱が高くなり（多くは39.5℃以上）、特有の発しん（赤い小さな斑状発しん）が出現します。発しんは耳の後ろから全身に広がっていきます。

麻疹の合併症として中耳炎、気管支炎、肺炎、脳炎等があります。肺炎は麻疹にかかった小児の約20人に1人の割合で発生します。脳炎は麻疹にかかった人の1,000～2,000人に1人の割合で発生し、後遺症を残すことがあります。麻疹にかかった後、約10万人に1人の割合で10年を経て発病する亜急性硬化性全脳炎（SSPE）では、死亡する例が多いといわれています。

## ◆ 治療・予防

特異的な治療法はなく、対症療法が中心となります。予防接種が最大の予防方法です。

定期の予防接種（無料）を必ず受けましょう。麻疹にかかったことがない人（予防接種を2回うけた人は除く）は予防接種を受けることをお勧めします。

又、麻疹患者と接触後3日以内に予防接種を受けると発症・重症化を予防することができます。主治医とご相談の上、早めに接種することをお勧めします。

[定期接種の対象者以外は、任意接種（有料）になります。]

## ◆ 疑わしい症状が出た場合

麻疹患者と接触があった日から21日間、毎朝、体温測定を行い、37.5℃以上の発熱を認めた場合や、せき、発しんなどの症状が出た場合は、理由を連絡の上、学校、仕事等を休み、早めに医療機関に受診してください。受診する際には、麻疹に感染しているおそれがあること（学校・職場等、又は家族に麻疹患者がいること）を電話であらかじめ伝え、受診の方法を確認してから受診してください。



### 【お問い合わせ】

各区保健福祉センター ・ 大阪市保健所感染症対策課 TEL 6647-0656